

平成30年度第1回東員町総合教育会議 議事録

1 開 会 平成30年4月23日 午後1時30分

2 閉 会 平成30年4月23日 午後2時40分

3 場 所 東員町総合文化センター 第一研修室

4 出席者	東員町長	水谷 俊郎
	教育長	岡野 譲治
	教育長職務代理者	向山 節雄
	教育委員	伊藤 あさ子
	教育委員	三貫納 幸
	教育委員	木村 陽一
	総務部長	齋藤 博重
	政策課長	岡本 幸宏
	教育委員会事務局長	岩田 浩一
	教育総務課長補佐	南部 博輝
	教育総務課主事	伊藤 晋也

欠 席 者 なし

5 会 議 事 項 別紙のとおり

(別紙) 会議事項

1 開会の辞

(岩田事務局長)

ただ今から平成30年度第1回東員町総合教育会議を開会いたします。

2 町長挨拶

町長より挨拶

3 事項

(1) 教育施策（平成30年度東員町教育基本方針）について

(教育長)

資料をもとに説明。

(岩田事務局長)

ここまでで何か御意見・御質問等はございませんか。

(委員)

教員が外部の任意団体の事務局となっており、そこで書類の誤りが沢山あり、信頼を落としていると聞いておりますので、課題かなと思います。いつも頑張っていていただき有り難いと思っておりますが、障がい児が増えてきており、予算上難しいと思いますが欲を言えば何か配慮できると良いかなと思います。

(岡野教育長)

経緯としては、外部の任意団体を支えるところがなかったので、学校の先生が事務局をしているということで、本来は先生の業務ではないので、抜けられるなら抜きたいと思っております。誤字脱字というのは、校長がきちんと見るというのが方法として考えられるかなと思います。特別支援学級の課題ですが、員弁郡就学指導委員会というのがあります。5歳児の子が小学生に入るときに地元の学校で特別支援学級に入るべきか、専門的な特別支援学校へ入るべきか判定が出されます。しかし、特別支援学校へ入るべきという判定が出ても、保護者の多くは地域の子どもと一緒に過ごさせたいという思いから、判定に従わずに地元の学校に通わせています。受け入れるとなれば、保護者と出来ること出来ないことの確認書を取ります。受け入れられないとなると、厳しいやりとりがあります。

(岩田事務局長)

障がい者については、町長部局と連携しながらやっており、町民ということもあり意向を尊重したいと思っておりますが、看護師や支援員等フォローする人を完全には充足できないということがあります。

(委員)

障がい者の方が以前より増えているように感じますが、町だけの問題ではなくて全国的にそうなのでしょうか。

(岡野教育長)

全国的にそのようです。医療が発達して、早期発見も可能で対応できるようになってきたということがあるようです。

(水谷町長)

特別支援学校へ行くべきと判定されても地元の学校へ行きたいという保護者を暫く付き添ってもらうことは出来ないのですか。それで判断してもらうのはどうですか。親の思いだけであって、本当にそれが良いのかは別の問題だと思います。

(岡野教育長)

全盲で他にも障がいのある子がいて、本来なら津にある盲ろう養護学校に行くべきですが、毎日親が津まで通わせられるかという点と難しいということで、笹尾東小学校で受け入れたケースがあります。

(水谷町長)

気持ちは理解できますが、親が自分の感情による判断だけで学校に入れてしまうことがないようにすべきだと思います。

(委員)

特別支援学校へ行って生き生きしているというケースも良く聞きますので、何でも受け入れてしまうことがないようにすべきだと思います。

(水谷町長)

全くそのとおりで、普通の学校へ入っても先生の目が完全に行き届くかといわれると中々難しいと思いますが、特別支援学校であれば、専門の方がみえますから対応できると思いますので、保護者も理解す

る必要があります。

(委員)

車椅子が必要な子が笹尾東小学校から東員第二中学校に進学したとお聞きしましたが、小学校のときは保護者からはどのような協力が得られていたのでしょうか。

(岡野教育長)

その子が4、5年生のときに認識しましたが、6年生の中頃から病気の進行がすごく早まってきました。保護者の方も学校に全て任せるという感じではなく、色々なところで助けてもらっています。

(岩田事務局長)

予算を通していただいて階段昇降機を設置しましたが、子どもが成長して大きくなってきて、椅子に乗せてあげるのが大変で、現場での大変さを見てもらって理解をいただくのも大事なかなと思います。

(委員)

子どもが骨折をしておりますが、先生がとても気を使われています。骨折とは違い、障がいとなると教育現場の負担はとても大きなものであると感じますし、養護学校へ行って生き生きしている子がいるという話を聞きますと、そういう風に促せると先生の負担も減りますし、本人も専門教育を受けられて良いのかなと思いました。

(岩田事務局長)

教育総務課ではバリアフリー等も含め、各施設の長寿命化の個別計画を作り、政策・財政部局と協議しながら補助を利用して順次大規模改修をしていきたいと考えております。学校教育課では、目標にありますが、子ども子育て支援の充実ということで、子ども家庭課や発達支援室と十分連携をして取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

(水谷町長)

教育長が16年一貫教育プランの成果が出始めていると言われましたが、他の市町は保育園の福祉部局と学校の教育委員会で情報の溝が出来ていると思います。東員町は全て教育委員会なので、こういうことができると思っています。時間が掛かるかもしれませんが、子どもは

こうするとこうなるという因果関係を出してもらいたいと思っています。子育てに必要な物、幼児教育に必要な物が何かということを実証として論理的に説明ができるものができると思いましたが、ぜひお願いしたいと思います。その後も追跡調査できるとより良いと思うので、三重大学に確認してみます。

(岩田事務局長)

それでは、次の事項に移ります。

(2) 東員第一中学校移転事業計画について

(岩田事務局長)

資料・模型をもとに説明

4 閉会

(岩田事務局長)

これを持ちまして、平成30年度第1回東員町総合教育会議を閉会と致します。ありがとうございました。